

# 戦争を見つめて

令和7年(2025年)は、昭和20年(1945年)の太平洋戦争終結から80年の節目の年です。広報たこでは数回にわたって戦争を振り返ります。

## 【80年の時を超えて響く鐘の音】

埴地区の勝栄山能満寺には、町指定文化財の鐘楼門があります。江戸時代の天保9年(1838年)に建立され、鐘楼(鐘をつるす建物)と山門が一体となった造りをしています。本来ならば、門の上に鐘がつるされているはずなのですが、太平洋戦争の終戦時に姿を消してしまい、約80年も鐘がない状態が続きました。

この度、檀家の皆さんの協力で鐘が設置されることになり、8月6日に設置作業が行われました。80年ぶりに鐘楼門に鐘の姿が戻り、美しく重厚な音色を響かせました。



暑い中に行われた設置作業



鐘の設置に携わった地域の皆さん

## 鐘の設置に関わった佐藤潔さん

令和元年の台風で鐘楼門の一部が壊れてしまい、町指定の文化財でもあったことから、檀家の皆さんの協力や町の補助金などを活用し、門を直すことになりました。門の修復後、戦前の鐘を知っている方々にまた鐘の音を聞いていただきたいと考え、檀家の皆さんの協力を得て鐘も新たに造ることにしました。鐘の鑄造は北陸地方の業者さんをお願いしましたので、能登半島地震の被災地支援という側面もあります。

前の住職の奥さまが、鐘は戦争で広島に行ったという話をされていました。広島に原爆が投下された8月6日という日に鐘を設置できたことは不思議な縁を感じます。私は戦時中に供出で鐘がなくなったと思っていましたが、当時を知る方にお聞きしたところ、鐘は終戦後しばらくしてからなくなったそうです。これ以上のことは分かりませんでした。戦争の道具になることはなかったため、きっと広島の復興のために役立ったのではないかと思います。



## 子どもの頃に能満寺の鐘を突いた経験のある

### 佐藤初枝さん

能満寺に鐘があった頃、この辺りの家では毎年8月15日にお盆でお供えした物を川に流してご先祖さまを送り出す「棚流し」をしていて、夜の12時近くになるとお寺の鐘を鳴らして各家に棚流しの時間を知らせていました。その鐘を突かせてもらったのが良い思い出です。

当時はまだ子どもだったので詳しいことは分からないのですが、終戦後も金属類の供出がしばらく続いていたようで、終戦後しばらくしてから能満寺の鐘がなくなってしまいました。戦後80年経ってお寺に鐘が戻ってきてくれたことは、とてもうれしく、感慨深いですね。

### 【編集後記】

今の多古町に戦争の影響が何か残っていないかという視点で取材テーマを探していたところ、今回の鐘の話聞き取材をさせていただきました。歴史に「もしも」はありませんが、戦争がなければ当時の鐘の音が今でも響いていたのかもしれない。

戦争は人の命だけでなく、地域の文化財や資源、インフラなど生活に身近なもの、必要なものも奪っていきました。このような面も、戦争の持つ残酷さの一つなのだと思います。



## みんなで食べるとおいしいね! ~こども食堂「夏のにこにこサロン」~

8月8日(金)、多古町保健福祉センターで「こども食堂『夏のにこにこサロン』」が開催されました。にこにこサロンは、子どもから高齢者まで幅広い世代が集まって交流を深めることができる、世代を超えた新たなつながりが生まれる場所です。

今回のこども食堂では、お米や野菜、元気豚など多古町の食材をふんだんに使用した手作りカレーが提供されました。また、会場では地域密着バンド「たこばん」のメンバーによる演奏も披露され、笑顔が溢れる楽しい時間となりました。食後に開催された「ペイブレード大会」でも、子どもたちは盛り上がりを見せていました。

手作りならではの温かみがあるカレーと一緒に味わったり、演奏で盛り上がったたりなど、楽しさがぎゅっと詰まったすてきな1日となりました。



## ~心を一つに広がるハーモニー~



## 親子ではじめてのフルート体験

8月23日(土)に多古町教育委員会主催、株式会社村松フルート製作所協力による「フルート体験ワークショップ 親子ではじめてのフルート体験 in 多古」が開催されました。

フルート初心者的小学4年生から6年生までの親子が参加し、午前と午後の部に分かれて、専門の先生方から1時間のレッスンを受けました。

最初は音を出す練習からスタートし、息の調整の仕方や楽器の組み立て方、姿勢や指使いなど一人ひとりが丁寧に教わり、少しずつ会場に響き渡る音が増えていきました。

体験の後半では合奏を行い、一体感のあるすてきなハーモニーを奏することができました。最後は、先生方による演奏やフルート入門楽器である「ファイフ」のプレゼントがありました。

「優雅なイメージを持っていたフルートは、実際に持ってみると重たかった」といった感想も聞かれ、体験を通じて新たな発見を得ることができました。この時間をきっかけに音楽の楽しさを分かち合い、心が一つとなる貴重な機会となりました。

